



CONTENTS

機構長メッセージ	1
機構の取組	2
質保証	6
2024年度の主な活動	7

NEWS LETTER

VOL.3



1. 機構長メッセージ

今号のNews Letterでは、(1)教育改革、(2)質保証、(3)2024年度の主な活動、以上の3本柱に基づき、教育開発推進機構の取組をコンパクトにまとめています。これらは、学生の成長に資する本学の教育システムの説明であるとともに、社会が求める人材育成に対し本学がどのようにその役割を進化させたのかを示す「大学の機能別分化」への更なる対応の事例紹介でもあります。具体的には、2025年度から始まる新しいディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）策定、学習者本位の教育システム構築、教育成果の可視化に基づく内部質保証など、社会からの期待に応えるとともに、文教政策の方向にも沿っています。ご一読いただき、ご意見を賜れば幸いに存じます。

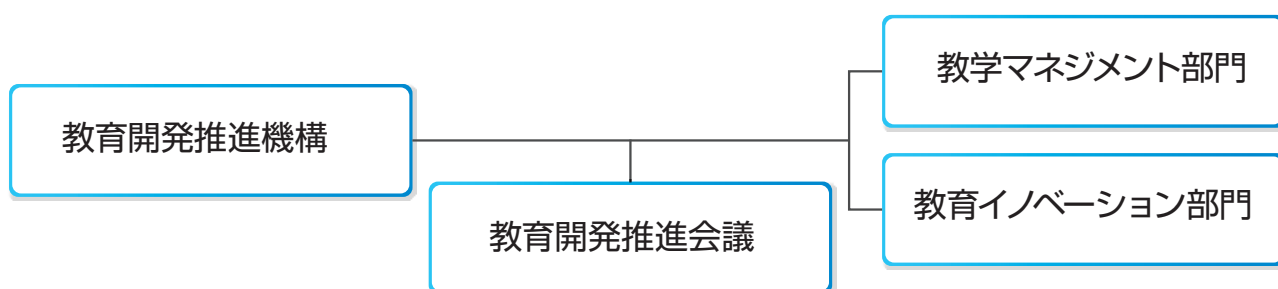


教育開発推進機構長

前田 洋

教育開発推進機構について

教育開発推進機構では、教育の質保証、教育能力の開発および向上、教育プログラムの開発およびその支援の取組を実行し、新たな教育改革・改善活動を全学的に推進しています。機構にカリキュラム等の教育の質保証および質向上を所轄する「教学マネジメント部門」と教育改革の方針に係る企画立案およびその実施に関することを所轄する「教育イノベーション部門」を設置し、新たな教育改革・改善活動を推進しています。



¹ FD(Faculty Development)とは、本学における教育内容および方法を改善し向上させるための組織的な諸取組です。

2. 機構の取組

(1) 教育改革

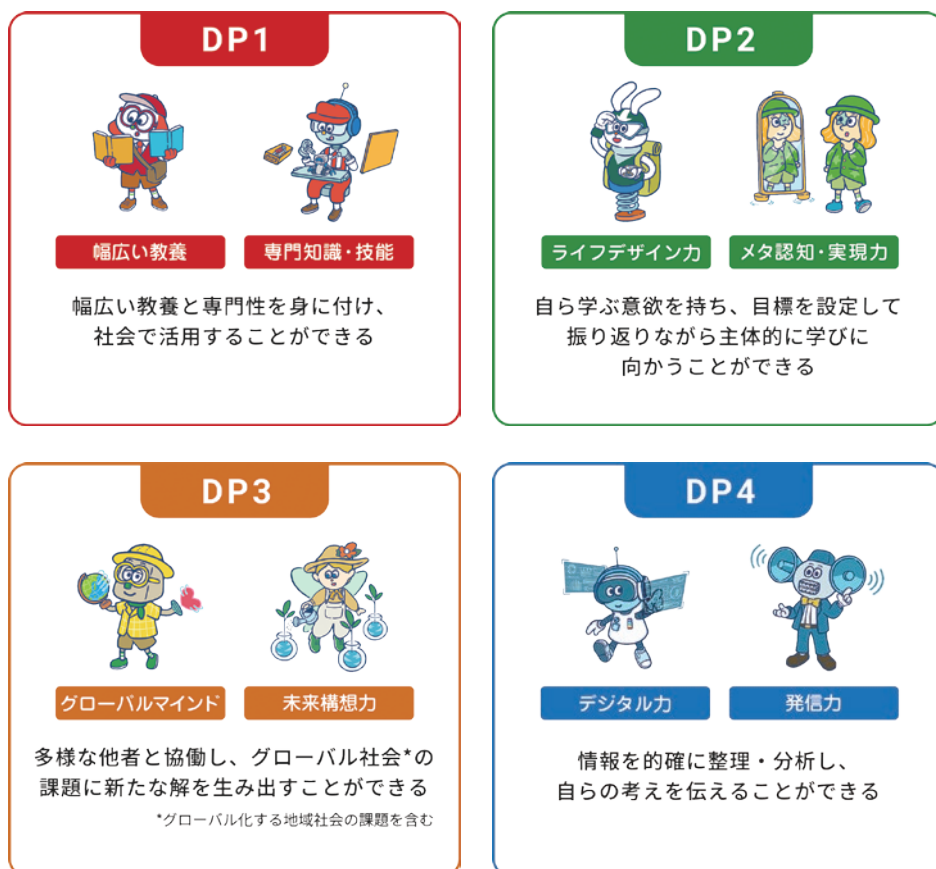
新DP策定

* 育成する人材像

本学では、「自律的に考え、行動し、様々な分野で創造性を発揮できるような実践型人材」の育成を目指しています。さらに、社会の変化やこれからの時代の要請を見据え、予測不能の時代に活躍できる新たな人材像として、第10次マスタープラン（中期経営計画）において「デジタル力を備えた実践型人材（デジタルエキスパート）」を定義いたしました。「デジタル力」とは、「数理的な素養に基づき、情報を的確に整理・分析することができる力」であり、未来を切り拓くための必須スキルです。Society5.0社会では、数多の情報の中で本質を見抜く能力や新たなテクノロジーを使いこなす力が求められます。教育・研究等を通じて修得した専門知識・技能や幅広い教養を、デジタル力を核として、文理横断の課題解決や社会実践に挑む人材の育成を目指します。また、異なる専門分野や文化的背景を有する他者と協働する姿勢を育み、世界中で活躍できる人材に成長することを支援していきます。

* 全学ディプロマ・ポリシー（DP）と8つのコンピテンシー

「デジタル力を備えた実践型人材」（デジタルエキスパート）を具現化するため、建学の綱領・教育理念および社会のニーズに基づき、新たに全学ディプロマ・ポリシー（DP）を策定し、2025年度から実施します。DPの項目をそれぞれ測定可能な要素に分解し、正課内外の学修を通じて育成する「共通の能力・資質（コンピテンシー）」として位置づけ、学びの指標として明示します。

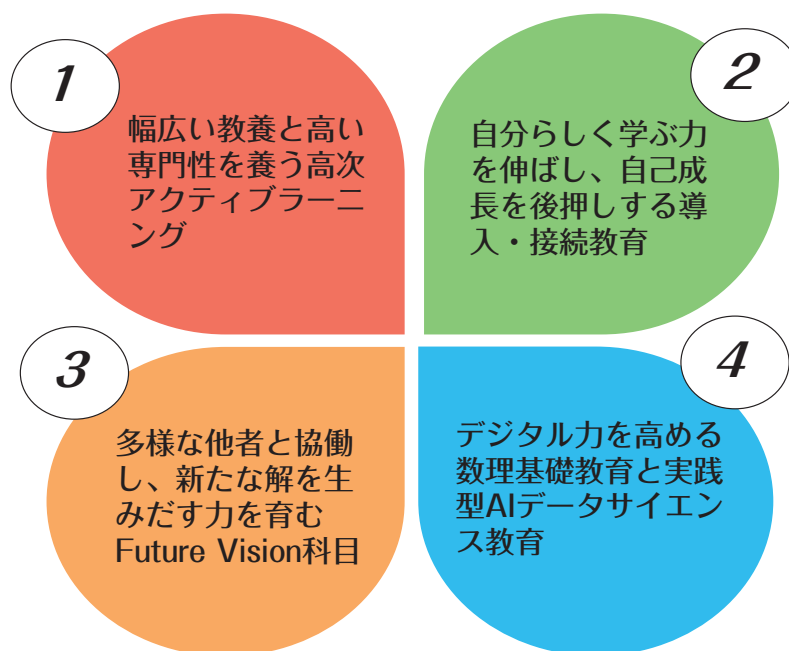


カリキュラム

* デジタルエキスパートを育成する教育プログラム

2025年度から、デジタルエキスパートに必要な共通の能力・資質（コンピテンシー）を育成するカリキュラムを実施します。

カリキュラムの特徴



また、共通の能力・資質（コンピテンシー）は、正課の科目だけではなく、準正課教育および正課外活動においても、共通の学びの指標として設定し、それらの活動全てを通じてコンピテンシーの育成を図ります。また、どのコンピテンシーが伸びたか、学修ポートフォリオ（FIT-AIM）上で学修成果の可視化を行います。自分の興味・関心に応じ、強みを伸ばし、弱みを強みに変えるために自分らしい学びを選択することができます。

* カリキュラムモデルの共通化と横断科目の開講

新DPをカリキュラムに実質的に反映させ、DPを達成するための科目の精選を行うことについて、「カリキュラムの基本的な考え方」をとりまとめ、議論を重ね、現在のカリキュラムを再整理し、カリキュラムモデルを共通化することとしました。

また、新DP達成の施策として、2025年度から複数学部学科コースの学生を対象とし、それぞれの専門分野を交えて学ぶ「横断科目」を開講します。同科目では、大学での学びと社会とのつながりを知る機会を取り入れるとともに、他学部他学科・他大学・地域・産業界といった異なる背景を持つ人々と協働して課題解決を行うプログラムを実施する予定です。今後は、横断科目を活用し、特定のテーマに基づく科目モジュールを設定し、指定された科目を全て取得した場合に、オープンバッジ（デジタル証明書）を発行するなど、学部学科のカリキュラムだけでは修得できない融合的・体系的な学びを展開し、学生がどのような学びを得たかの学修履歴を明示する取組を行う予定です。

* 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力をすべての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要があるとして、文部科学省が推奨する認定制度（AI戦略2019）です。本学では、リテラシーレベルに対応する全学共通科目として2022年度から「AIデータサイエンス基礎」を開講し、また2023年度から工学部・情報工学部それぞれにおいて応用基礎教育プログラムとして体系的な教育を展開しています。

■全学で、2023年8月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。（認定の有効期限：2028年3月31日まで）



MDASH
Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム 認定制度
リテラシーレベル

■工学部・情報工学部が、2024年8月、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」に認定されました。（認定の有効期限：2029年3月31日まで）



MDASH
Advanced Literacy
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education,
designated by the Gov of Japan

数理・データサイエンス・AI
教育プログラム 認定制度
応用基礎レベル

Pick up 「ニューラルネットワーク（ディープラーニング）の理論と実装」ワークショップ

本学情報工学部の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの一環として、9月10日、12日、17日に、「ニューラルネットワーク（ディープラーニング）の理論と実装」ワークショップを開催し、11名の学生が参加しました。情報工学科 山澤教授が講師を務め、学科を超えた実践的な学びの場が開催されました。参加学生は3日間で合計12コマの講座を通して、人工知能に関する知識を深め、実際にニューラルネットワークを動かして理解することを体感しました。



FIT-ITセミナー



本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの一環として、以下のセミナーを開催しました。

6月：「開発組織における Developer Relations の役割」

10月：「グローバル金融市場と日本ー福岡の可能性ー」

（講師：合同会社CCSマネジメント会長兼福岡県国際金融アドバイザー）

学生アセスメント

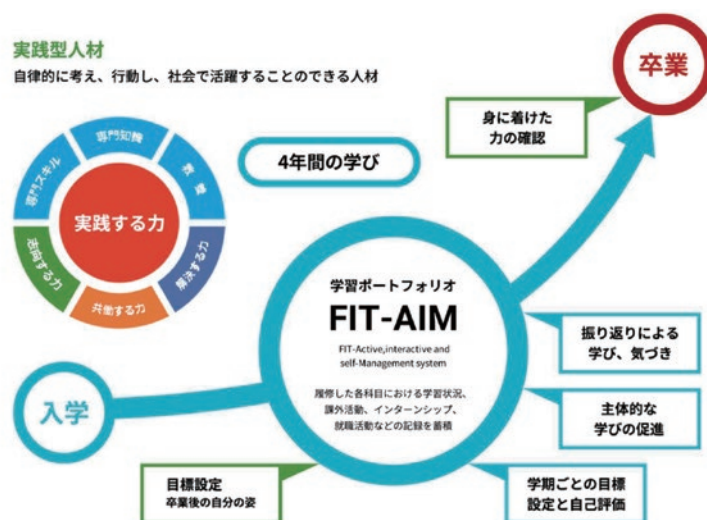
* 学びの振り返りアンケート

学生の成長度の総括的評価を測り、次期の授業計画、カリキュラム改善、組織的FD活動（学部PDCA）に役立てること、また、学生が学修の振り返りの機会とし、次期履修者が学生の評価やコメントを履修計画の参考とすることを目的に授業アンケートを実施しています。各期第13～14週目に実施し、全開講科目（卒研、ゼミⅢ、集中講義を除く）を対象としています。今回、全学ディプロマ・ポリシー（DP）策定に伴い、名称を「学びの振り返りアンケート」と改訂し、シラバスに記載された達成目標を引き込むことで、各授業で設定したDPの達成度について振り返りを行う構成とするなどの見直しを行っています。

* 学生の主体性育成と自律的学修の習慣化

本学では、学生が自ら学習の在り方を調整し、自律的・能動的に学ぶ態度を身に付けるために、自分の目標を定め、それに対する学期ごとの目標設定および振り返りを行うことで、自律的学修の習慣化の育成を目指しています。新入生には入学直後のオリエンテーションで目標設定のセミナーを実施し、2024年度から2年生には年度初めのオリエンテーションで動画を用いた振り返りと目標設定を行いました。

また、自律的学修の習慣化を促進するツールとして、FIT-AIM（学習ポートフォリオ）を導入しています。FIT-AIMは学習目標の達成具合や課外活動の成果などを自ら記録し振り返ることによって、自分の成長を感じ取ったり、新たな課題を発見したりしながら、4年間の学習成果として、どのようなことを学び、どのようなことができるようになったかを確認できるシステムです。授業の振り返りや授業外学修の記録のために本システムを活用する科目もあります。今回の全学ディプロマ・ポリシー（DP）策定に伴い、学修成果の状況、DP推移、課外活動成長度、自己評価、アセスメントテスト等が反映されるように改修を行っています。



Pick up FIT-プレセミナー

11月16日（土）総合型選抜合格者の合格者を対象に、「FIT-プレセミナー」を開催いたしました。FIT-プレセミナーは、入学後に本学での学びや活躍のイメージを持ち、入学までのモチベーション維持・不安軽減を図ることを目的とし、開催しました。当日のプログラムでは、「本学での学び」に関する講義、「学びの振り返り」と「目標設定」に関するワークショップや「大学生活のイメージ」を紹介する先輩学生プレゼンテーションと座談会などを実施しました。



(2) 質保証

本学における教育点検活動では、本学で定める3つのポリシーが適切であるかどうか、また3つのポリシーに基づき適切に機能しているかの視点から、学生が確実にディプロマ・ポリシーを達成できるようカリキュラムをマネジメントするため、大学、学部学科（カリキュラム）、授業科目、学生のそれぞれのレベルでの学修成果および教育成果を総合的に点検し、その結果を教育・授業改善、ならびに学生自身の成長に繋げていくことを目的としています。

今年度は、さらに実質化を進めるため、点検項目について、認証評価における点検評価項目を参考に見直しを行いました。この点検評価項目の見直しは、毎年度の点検（モニタリング）を簡易化し、加えて、数年間を単位とするプログラムレビューの仕組みの導入を行うことを念頭に置いています。

また、本学の教育の「質保証」の一環として、学生が本学の教育改善に参画をする取組みを実施しています。学生FD（FIT-join）や学生授業サポート制度（TA/SA/CS）の活動を通じて、本学の教育内容、学習環境、学習支援に関する改善、提案、授業支援を行い、本学の教育改善への学生参画を図っています。

FIT-joinの活動

本学における学生FD（団体名：「FIT-join」）は、本学の授業改善を教員・職員・学生の三位一体で改善・向上させようとする取組、およびそれに関わる活動に取り組んでいます。活動の一つとして、学生アンケートを通じて、授業や大学生活に対して抱えている不安や改善してほしい点について調査を行い、結果を分析し、教員との意見交換の場で授業改善に向けた提案をしています。今年度は「動機づけ」、「昨年度との比較」、「学校改善」の3つを調査の柱とし、学生生活の満足度とのクロス分析結果から、学生生活を充実させるために必要なことについて提案を行いました。



学生授業サポート制度

本学では、大学院生と学部学生が授業をサポートする活動を行っています。大学院生はTA、学部学生はSAとして実験・実習科目や演習科目で教員と共に受講生を支援し、教育効果を高めています。

また、学部学生がCSとしてアクティブ・ラーニングを行う演習科目や講義科目でグループ学習やピアラーニングを支援し、受講生同士の協力と学び合いを促進しています。これにより、知識の定着や能動的な学習態度が育まれるだけでなく、TA・SA・CS自身の学習も深化し、大学生活や将来のキャリアデザイン、就職活動に役立てることが出来ます。



Pick up 学生によるカリキュラムレビュー

12月13日（金）、「学生によるカリキュラムレビュー」を開催し、教職員17名・学生14名が参加しました。本取組は、卒業予定者が4年間を振り返り、履修してきた科目などについて評価と助言を行うことで、その結果を教育・授業改善、ならびに学生自身の成長に繋げていくことを目的としています。先行している広島市立大学の取組を参考にさせていただき、今回初めて実施いたしました。



(3) 2024年度の主な活動

教員表彰制度「FIT教育賞」

2024年度より、従来の教員表彰制度をより全学的な取組として再構成し、全学的な教員表彰制度「FIT教育賞」をスタートしました。「FIT教育賞」は「グッドプラクティス部門」、「グッドカリキュラム部門」、「実践力育成部門」の3つの部門を設けています。

本学の教育力を維持発展させるために、熱心に教育活動を行い、教育改善活動に貢献したと思われる教員を表彰し、その功績およびグッドプラクティスを学内に共有することで本学の教育力の向上につなげることを目的としています。



WEB 投票

FIT 教育賞

学部生のみなさん
ぜひ投票を！

成長に役立った授業や活動
について学生の声を募集します

FIT 教育賞とは.....
熱心に教育活動を行い、教育改善に貢献した教員や取り組みを表彰するもので、今年度からスタートする表彰制度です。
この賞を通じて、好事例を学内で共有し、本学の教育力向上を目指します。

投票期限：12月31日まで
学部生の投票 Forms はこちら



あなたの声が大切な一票です

表彰のテーマなど、詳細は上記の Forms 内の記載をご確認ください。

問合せ先：教育開発推進室
e-kaihatsu@fit.ac.jp (E棟3階)



新任教員FD研修会

4月4日（木）に「新任教員FD研修会」を開催し、新任教員8名が参加しました。研修会に先立ち、2月に本学の教育（大学教育を取り巻く現状、本学の教育理念・方針・人材育成目標、その達成のための教育活動、授業実施の基本的考え方等）に関する動画および、本学の質保証の取組（教育の質保証の仕組み、DP達成に向けた授業実施の基本的考え方と授業設計、アセスメントプランに基づく教育点検活動等）に関する動画の事前視聴案内を行っています。8月27（火）には、「新任教員フォローアップ研修会」を開催し、新任教員（主に1～2年目）を対象に、前期の教育活動の振り返りを通して、現状の課題などを共有し、本学教員としての心構えを持ち、本学での考え方を理解した上で後期の教育に取り組むことができるようにすることを目的として開催しました。



ミドルマネジメント研修

9月18日（水）に学長を支えるミドル教職員（副学長、研究科長、学部長、教務部長、学科長、センター長、事務局等）を対象に、全学的な教学マネジメント体制に必要な考え方やスキルを身に付け、新たな変革につながるリーダーシップの必要性への意識を高めることを目的に「ミドルマネジメント研修」を開催しました。



教学マネジメント委員意見交換会

10月23日（水）、2024年度「教学マネジメント委員意見交換会」を開催し、教員14名・職員10名の計24名が参加しました。本意見交換会は、評価・推進部会構成員（教学マネジメント委員および教学マネジメント部門員）を対象とし、所属組織を越えて、本学に必要な教育改善について意見交換を行うことにより、課題に対する認識共有を図り、効果的なFD活動につなげることを目的として開催されたものです。今年度は3つのテーマ：①データで見る福工大生の姿、②ICTを活用した授業実践とその効果～BYOD推進について考える、③学修の評価とフィードバックに分かれて意見交換や情報共有が行われました。



教育業績賞報告会（2件）

6月19日（水）、2023年度教育業績賞受賞者報告会として情報マネジメント学科 傅 靖 准教授の報告会が行われました。傅准教授はシステムマネジメントゼミナールⅠ・Ⅱ（2、3年生必修科目）におけるグローバル教育、ならびにタイ・KMITLを中心とした学生の海外派遣プログラムの構築と運用について精力的に取り組まれてきました。また学部生、大学院生に向けたサンノゼ州立大学教授との特別講義やセッションなどを長年継続的に行ってきました。傅准教授のこれらの取組は、今後ますます加速してゆく本学の全学的グローバルPBL教育において顕著な貢献であることから、情報工学部教育業績賞を受賞されました。報告会では、学生のためのグローバル化に向けた取組や考えについて発表されました。



7月24日（水）、2023年度教育業績賞受賞者報告会として情報工学科 馬場謙介 教授の報告会が行われました。馬場教授は情報工学部でプロジェクト型学習(PBL)を推進する中心的な教員の一人で、馬場教授の取組により、学生たちは実践的な技術と知識を身につけるための効果的な枠組みを活用できるようになりました。特に、iTechLABを活用した取組においては、学生が自主的に学び、成長する環境を提供することに功績があり、学生たちは古賀市の実証実験事業に取り組むなど、地域社会に直接貢献するプロジェクトを成功させています。これらのことから、2023年度情報工学部教育業績賞を受賞されました。

本報告会では、古賀市とのデータサイエンスに関する取組についてご報告されました。



3月11日（月）「大学におけるプログラミング教育について考える」をテーマに、第34回FD Caféを開催し、教員13名と職員5名の計18名が参加しました。今回のFD Caféでは、北九州市立大学でプログラミング教育に携わる山崎進准教授を講師にお迎えし、大学におけるプログラミング教育の課題や今後の対応について意見交換を行いました。



9月20日（金）「やってみようと思ったきっかけを共有しよう！」をテーマに、第35回FD Caféを開催いたしました。今回のFD Caféは、教員と学生が「学びへの動機づけ」に関してグループワークを通して理解を深め、今後の本学における学習者本位の教育の推進、全学的な授業改善につなげることを目的に、教職学によるFD Caféを開催し、学生20名、教職員27名、東北工業大学から8名、計55名が参加しました。グループワークに先立ち、学生FD FIT-joinが実施した学生アンケートの報告を行い、教養力育成センターの原田寛子教授のファシリテーションによるグループワークでは、興味、関心を持った事にチャレンジしようと思ったきっかけは何なのか、また、それを続けた理由は何なのかなどについて、内発的動機づけと外発的動機づけの関連から見えるものについて共に考えました。



11月8日（金）「学生指導に必要なコーチング技能」をテーマに、第36回FD Caféを開催いたしました。今回のFD Caféは、コーチング技能の活用によって学生の考える力、自発性や応用力、可能性を引き出し、学生の個性を活かす取り組みを実践されている芝浦工業大学の浜野 学教授をお招きして、研修会を開催しました。研修会では、講義や研究室、また課外活動などにおける学生指導に必要な教育指導の在り方やコーチング技能の活用による指導のコツ、メリットや留意点などについてワークショップを交えながら、講演頂き、本学教職員27名、福岡未来創造プラットフォーム加盟大学から4名の計31名が参加しました。



学部表彰

4月3日（水）、本部棟3階図書館内プレゼンテーションコートにて、2023年度学部表彰 表彰式を実施し、受賞者代表の学部生24名と、教職員13名（会場での参観者含む）が参加しました。またライブ配信を行い、受賞者26名と教職員2名がオンラインで参加しました。

「学部表彰制度」は、学部ごとに実施していた学業優秀者や資格取得者への表彰制度を統合し、2021年度から開始した制度で、今回で3年目となります。

「優秀学生表彰」は主体的な学習活動を行い優秀な成績を収めた学生や、課外でのコンテスト等で成果を上げた学生を表彰します。また「資格取得表彰」は学部が推奨する資格を取得した学生を表彰します。2023年度は、3学部合わせて「優秀学生表彰」は201名201件、「資格取得表彰」は181名204件が表彰されました。



FIT-SDGsプロジェクト

6月28日（金）、防災・安心プランナーとしてメディアでもご活躍され、3度の大地震を経験されている「しほママ」こと柳原志保氏を講師としてお招きし、FIT-SDGsプロジェクト講演会『SDGs×防災 女性目線！みんなに優しい忘災とは？』を開催しました。本講演会では、タイトルにもある“災いを忘れない”という視点から、実体験をもとにすぐにでも役に立つ防災についての知識や情報を、歌を交えて楽しく学べる体験型で、SDGsのゴールテーマとも関連させながらご講演いただき、学生23名、教職員18名の計41名が参加しました。また参加ノベルティとして、「しほママ」共同開発の非常用トイレがプレゼントされました。



アントレプレナーシップ教育

10月27日（日）PARKSアントレプレナーシップ人材育成プログラムの取組みとして、本学の学生7名と西日本新聞のこども記者（小中高校生）10名が本学に集まり、「新聞コミュニケーション・コンテスト」を開催しました。この取組みは、“社会をよりよくするため自由な発想で自分らしく”をモットーに、本学学生と西日本新聞のこども記者がアントレプレナーシップについて学び、考える企画で、こども記者たちは「森の役割」をテーマに、夏休み期間を利用して大分県日田市の森林を取材し、本学学生とともにプレゼンテーション資料を制作しました。こども記者は15名を超える保護者が見守る中、コンテストに挑みました。



■教育開発推進機構オリジナルサイト <https://oped.fit.ac.jp/>

本学の教育活動を広く公開することを目的にオリジナルサイトを開設しています。本 NewsLetter 掲載の各活動の詳細も記載しております。また、学内教職員専用ページでは、メールや会議文書等で個別に周知・ご案内の情報を集約し、必要な時に必要な情報にすぐにアクセス頂けるページとなっています。教育開発 Summary Report のバックナンバーも掲載していますので、是非ご利用ください。



■刊行物 <https://oped.fit.ac.jp/html/public/> ★FD Annual Report

福岡工業大学「FD Annual Report」では、本学における日常の教育実践の他、授業方法の改善全般に関わる論文および実践報告等を掲載し、学内の FD 推進の意識向上を図ることを目的としています。投稿文はオリジナルサイトまたは福岡工業大学機関リポジトリ <https://fit.repo.nii.ac.jp/> 紀要・部局刊行物 > FD Annual Report からご覧ください。

★NEWS LETTER

「NEWS LETTER」では、福岡工業大学教育開発推進機構の取組を紹介しています。バックナンバーは上記オリジナルサイトからご覧ください。

